

ブロイラー産肉能力に関する試験〔第45報〕

八木智子・山本亮平・馬木康隆・松長辰司・清水正明

要 約

ブロイラーの改良と農家経営の指針を得るため、県内で飼育されている主要銘柄であるチャンキーについて、令和元年9月11日から令和元年10月23日（43日間）まで産肉能力試験を実施した。

6週齢時の雌雄平均成績について、育成率は98.5%であった。出荷時体重は3,142gであった。飼料要求率は1.36であった。むね肉、もも肉およびささみを合わせた歩留まりは、50.1%であった。プロダクションスコアは541.3であった。

以上の結果のとおり、ブロイラーの産肉能力は毎年向上しており、今後も継続した試験が必要である。

目 的

当課では、ブロイラー改良の動向を把握するため、昭和52年からブロイラーの主要銘柄について産肉能力試験を実施している¹⁾。本試験では、県内に流通している市販1銘柄を用い、その発育性、飼料摂取量、飼料要求率および屠体成績について調査した。

材料および方法

1) 試験期間

令和元年9月11日から令和元年10月23日（43日

表1 試験飼料

期 間	種 類	成 分 (%)				ME (kcal/kg)
		C P	粗脂肪	粗繊維	粗灰分	
0-3週齢	ブロイラー肥育前期用	20.0	4.0	5.0	8.0	3,150
3-5週齢	ブロイラー肥育後期用	18.5	4.5	5.0	8.0	3,230
5-6週齢	ブロイラー休 薬 用	18.0	4.5	5.0	8.0	3,300

C P：粗タンパク質 ME：代謝エネルギー

4) 飼養管理

試験鶏舎は平飼開放型鶏舎で1室4.32㎡を使用し、各室50羽（38羽/3.3㎡）を収容した。育雛、

間)。

2) 試験区分

供試鶏はチャンキー、供試羽数は雌雄それぞれ100羽とし、雌雄別飼とした。

3) 試験飼料

試験期間を通して市販のブロイラー用飼料を用い、不断給餌とした。試験飼料の成分は表1のとおりである。

育成とも同一場所で飼育した。温度管理は当課の慣行に従い、パンケーキ型ガスブルーダーによる給温は2週齢時に廃した。飲水はニップルドリン

カーを用い、自由飲水とした。

5) 衛生管理

ワクチネーションは、初生時にIB, 2週齢時にND, 19日齢時にIBD, 3週齢時にILT, 4週齢時にNDとした。その他の薬剤投与は当課の慣行に従った。

6) 調査項目

調査項目は、鶏舎環境、育成率、発育体重、飼料摂取量、飼料要求率および屠体成績とした。

結果および考察

1) 鶏舎環境

各週齢における、各項目の平均値は図1のとおり

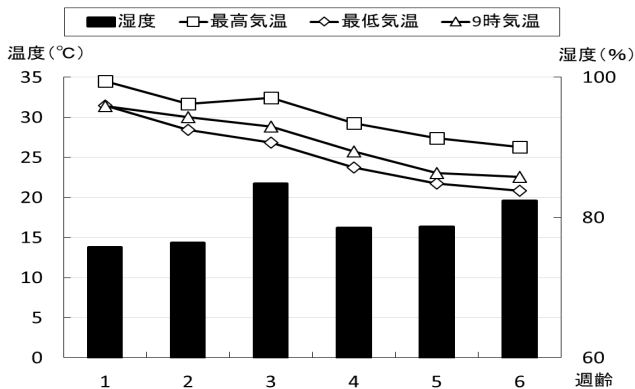


図1 鶏舎気象

表4 1羽1日あたりの飼料摂取量

飼料種類・期間	前期用			後期用		休薬用
	1	2	3	4	5	6週齢
♂	18.9	46.2	90.1	141.6	176.0	191.6
♀	17.2	43.7	77.7	118.4	143.1	154.9
平均	18.1	44.9	83.9	130.0	159.6	173.2

表5 期間別飼料摂取量 (g)

期間	0-3週齢	3-5週齢	5-6週齢	計
♂	1,086	2,223	1,341	4,651
♀	970	1,831	1,084	3,885
平均	1,028	2,027	1,213	4,268

りである。

2) 育成率

育成率は、表2のとおりである。

雄は39日齢に2羽、雌も39日齢に1羽死亡した。死亡個体には、発育不良等が見られた。

表2 育成率 (%)

♂	♀	平均
98.0	99.0	98.5

3) 発育体重

発育体重は表3のとおりである。

表3 週齢別発育体重 (g)

	0	1	3	5	6週齢
♂	40.1	165.4	1,008	2,656	3,478
♀	41.0	150.4	882	2,201	2,805
平均	41.1	157.9	945	2,429	3,142

4) 飼料摂取量

飼料摂取量は表4および表5のとおりである。

6週齢までの1羽当たりの総摂取量は、雄4,651g, 雌3,885gであった。

5) 飼料要求率

飼料要求率は、表6のとおりである。

6週齢時において雄1.34, 雌1.38であった。

また、腹腔内脂肪は1.8%であった。

表6 飼料要求率

週齢	3	5	6
性			
♂	1.12	1.27	1.34
♀	1.15	1.30	1.38
平均	1.14	1.28	1.36

注 (1) 3, 5週齢：飼料摂取量/(発育体重-初生体重)

(2) 6週齢：飼料摂取量/発育体重

6) 屠体成績

屠体成績を表7に示した。

屠体調査は、6週齢時に食鳥取引規格に基づき実施した。調査に供試する個体は、平均体重に近いものを雌雄各3羽とした。

屠体歩留まり率は、平均94.8%であった。むね肉、もも肉及びささみの合計は、屠体重に対して50.1%であった。

表7 屠体成績 (6週齢時)

項目	生体重	屠体重	屠体歩留	正肉歩留			骨付き手羽	可食内臓割合			腹腔内脂肪		
				むね	もも	ささみ		計	心臓	筋胃		肝臓	計
♂	3,437	3,243	94.4	24.4	21.6	4.4	50.3	8.0	0.4	1.1	1.9	3.4	1.6
♀	2,750	2,620	95.3	24.7	20.5	4.7	49.9	8.1	0.3	1.2	1.9	3.4	2.1
平均	3,093	2,932	94.8	24.5	21.1	4.5	50.1	8.1	0.4	1.1	1.9	3.4	1.8

(体重：g, その他：%)

表8 経済性試算表

項目	収入	支出				P S	所得 (収支)	
		素ヒナ代	飼料費	光熱費等	計		1羽あたり	1kgあたり
♂	521.7	80	196.7	34	310.7	606.8	211.0	60.7
♀	420.8	80	164.9	34	278.9	477.5	141.9	50.6
平均	471.2	80	180.8	34	294.8	541.3	176.4	55.6

(P S以外：円)

注 (1) 収入：1羽あたり平均体重 (kg) × 150円

(2) 飼料費：前期用49円/kg, 後期用41円/kg, 休薬用39円/kgで試算

(3) 光熱費等内訳：衛生費16円/羽, 光熱費その他等18円/羽で試算

(4) P S：プロダクションスコア = {(出荷時体重 × 育成率) ÷ (飼料要求率 × 出荷日数)} × 100

(5) 所得：収入 - 支出

7) 経済性

経済性を表8に示した。

6週齢における1羽あたりの所得は、雄211.0円、雌141.9円、雄雌平均176.4円であった。これらを生体重1kgあたりの所得に換算すると、平均は55.6円となった。

ブロイラーの産肉能力は毎年向上しており、今後も調査を継続し、ブロイラーの能力に適した飼養管理技術の改善を図る必要がある。

文 献

- 丸谷永一・清水正明ら. 徳島畜研報. 19. 34-37. 2020.